

（例題）大地といのちを描いた画家 木葉井悦子の世界展

企 画 （案）

会期：1 ヶ月から3 ヶ月程度。具体的な日程は両者協議の上で決定します。

展示構成(案)：会場の規模・ご予算に合わせます。ご相談下さい。



「ともだちくも」©1992 Etsuko Kibai



「みずまき」 ©1994 Etsuko Kibai

(例題)「大地といのちを描いた画家 木葉井悦子の世界展」 企画内容

《展覧会趣旨》

1995年にこの世を去った絵本作家、木葉井悦子は生涯で17冊あまりの絵本を世に送り出しました。多いとはいえ数ではありますが、ありのままの自然と人間の姿を描いた彼女の作品は今もなお、色あせることなく私たちの心に訴えかけてきます。

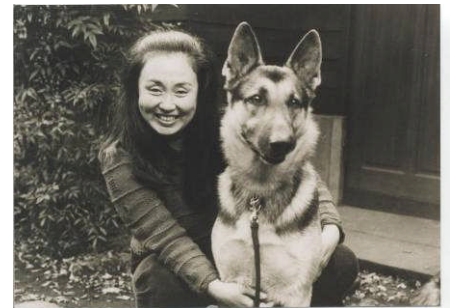
美大で油絵を学び、純粹絵画から出発した木葉井を絵本制作に向かわせた転機は1970年、初めてアフリカを訪れた時のことであったといえます。「そこ(アフリカ)で生きのびる力を授かった」という彼女は、『あかいめのしろへび』というアフリカを舞台にした絵本を皮切りに次々と作品を生み出していました。

本展覧会では、木葉井を語る上で欠かせないキーワード(「アフリカ」「仏教」等)とともに、絵本や挿絵本のほか、木葉井ゆかりの品々(生前愛用していた画材や愛読書など)も展示し、木葉井悦子を幅広い角度から紹介します。描くことへの情熱とエネルギーあふれる世界を体感していただけることと存じます。

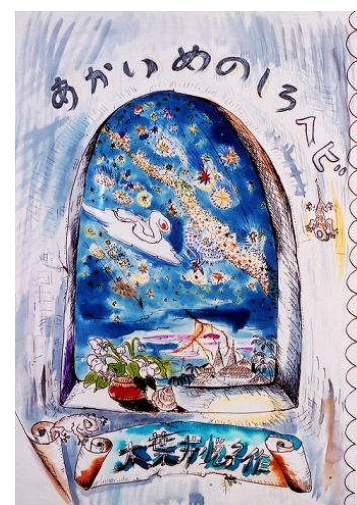
しばしば「大胆な線と明るい色」と評されることの多い木葉井の絵本からは、彼女が読者に伝えたかったメッセージを、そして躍動する大地といのちを受け取っていただけることでしょう。

木葉井悦子(きばい・えつこ 1937～1995)

東京都小金井生まれ。武蔵野美術大学で油絵を学び、画家として活動。アフリカから得たインスピレーションをもとに、1978年に初めての絵本『あかいめのしろへび』を出版。その後、自身の幼少期の思い出や、故郷である武蔵野の自然、生き生きと暮らす人々や動物たちなどを絵本の中に歌い上げ、生涯で17冊あまりの絵本を手がける。絵本の代表作には、『ぼんさいじいさま』(1984年)、『みずまき』(1994年)などがある。



「アバディのパン」 ©1990 Etsuko Kibai



「あかいめのしろへび」
©1978 Etsuko Kibai

＜導入＞木葉井悦子の生い立ち(略歴・年表)

→パネル年表により、木葉井悦子の生い立ちを紹介します。

I. 木葉井悦子の軌跡

→説明文・写真・原画・生前使用していた画材・愛読書・手紙のコピーなどを通して木葉井悦子の全体像を紹介します。

II. 絵本作家・木葉井悦子 ～原色と淡色の世界～

→木葉井の描く原画にはたくさんの色が用いられ、作品によって様々な画材や画風が使い分けられています。例えば、庭の生き物たちが水を得て生き返る様子が描かれた『みずまき』は、ダイナミックな筆遣いと鮮やかな色彩で描かれているのに対し、死をテーマとした『ぼんさいじいさま』では、緻密なペンと淡い水彩で描かれています。ここでは絵本一冊分の原画や絵本のラフ(試作品)を展示し、「絵本の製作過程」にも触れられるようにします。



「ぼんさいじいさま」 ©1984 Etsuko Kibai



「みずまき」 ©1994 Etsuko Kibai

III. 画家・木葉井悦子

i) 虹色の世界 ～タブロー・カンバス画・版画～

→中学生の頃から絵を描くことに喜びを見出していた木葉井は、数多くのタブロー(額絵)を制作しました。力強い線、豊かな色彩、不思議な存在感を漂わせる形などからは木葉井の生前の息遣いや、精神世界の一部を感じることができるといえます。ここでは、1 m以上のカンバスに描かれた初期の油絵なども含め、主に個展に出品していたタブロー作品を展示します。



RCC から「満ちてくる潮」
©Etsuko Kibai



カエルを描いたタブロー
©Etsuko Kibai

ii)モノクロームの世界 ～ペン画・墨絵など～

→木葉井の描く絵本やタブロー作品は、極彩色の絵具が多用され、明るく生き生きとした絵が特徴ですが、その一方で人生の闇に目が向けられたような、緻密なペン画なども多くあります。絵本やタブローをそのテーマや色彩の豊かさなどから「陽」とすると、このコーナーは「陰」と位置づけることができます。ここでは、絵本作品には描かれなかった木葉井の苦悩や風刺の精神が表れた作品を紹介します。



「耳界」 ©1979 Etsuko Kibai



「人生あっちこっち3」
©Etsuko Kibai

IV. 仏の世界 ～仏教をモチーフにした作品～

→仏教哲学や心理学にも興味を抱いていた木葉井は、生死や輪廻転生をテーマとした作品にも取り組んでいます。晩年には、奈良・興福寺に滞在し、ひたすら仏画を描き続けたというエピソードからも、彼女の仏教に対する思い入れの深さがうかがえます。



「観音仏教のころ」 ©1993 Etsuko Kibai

V. 木葉井悦子の仕事

→木葉井悦子の手がけた挿絵が掲載された本、および絵本を展示します。



木葉井悦子 絵本の仕事

1978	『あかいめのしろへび』 銀河社
1984	『バオバブのこアビク』 福音館書店
	『ぼんさいじいさま』 偕成社
	『サバクでおちやを』 フレーベル館
1987	『ーまいのえ』 フレーベル館
1990	『アバディのパン』 ほるぷ出版
	『おおきいそら』 ほるぷ出版
1991	『わたしも』 福音館書店
	『クロてがみかこう』 福音館書店
1992	『ともだちくも』 すずき出版
1993	『やまのかぜ』 架空社
	『ねずみねずみねずみがいっぱい』（内藤里永子・吉田映子編訳 大日本図書）
	『ここんぶいぶい』（織田道代作 福音館書店）
1994	『みずまき』（講談社）
	『カボチャありがとう』（架空社）
	『なんじゃらほい』（福音館書店）
1995	『かさじそう』（織田道代作 すずき出版）

木葉井悦子受贈作品・および資料

分類	題名	点数
タブロー(額絵)・・・104 点		
原画【絵本・画集・本の挿絵】 ・・・538 点	あかいめのしろへび	21
	バオバブのこアビク	17
	ぼんさいじいさま	19
	サバクでおちやを	23
	1 まいのえ	22
	アバディのパン	21
	おおきいそら	21
	わたしも	15
	クロてがみかこう	22
	ともだちくも	16
	やまのかぜ	7
	ねずみねずみねずみがいっぱい	22
	みずまき	28
	かさじそう	16
	耳界	43
	かざはなせんによゆらい図	79
	観音仏教のころ	22
	今昔物語	16
	谷小ふるさとの森	31
	巨人ナナブッシュ	44
	3つのけいりゃく	25

	題名不明(アフリカもの)	8
油絵・・・28点		
雑誌などに掲載された絵 ・・・98点	雑誌名不明(1987年4月号)	5
	「母の友」(福音館)	26
	「3年生の詩」(小学三年生)	21
	「朝日ジャーナル」(書)	27
	「日の出の森からの新聞」表紙(1994年)	2
	「Sunpower」表紙	17
スケッチなど(1枚1枚独立した絵) ・・・756点	ペン画／スケッチ／エッチング／墨絵／鉛筆画 など	
ラフ ・・・9点	かさじそう	1
	ぼんさいじいさま	1
	わたしも	1
	ともだちくも	1
	バオバブのこアビク	1
	サバクでおちゃを	1
	アバディのパン	1
	クロてがみかこう	1
	てつだって	1
絵画・絵画に準ずる作品 総計 1533 点		
その他資料	愛用の画材	
	アフリカの写真・ネガ	
	アフリカの民芸品	24
	愛読書	10

木葉井悦子の作品が展示された近年の展覧会

2004 年	「木葉井悦子の世界展」	軽井沢絵本の森美術館
2005 年	「木葉井悦子没後十年回顧展 いのちの歓びと大地のめぐみ展」	軽井沢絵本の森美術館
2006 年	「日本の絵本芸術展」	新潟市新津美術館
2006 年	「日本の絵本・英国の絵本」	下関市立美術館
2007 年	「ワイワイワールドえほん展—世界の絵本原画展」	田川市美術館
2007 年	「ムサビと絵本 —絵本の表現—」	武蔵野美術大学美術資料図書館

※軽井沢絵本の森美術館では、「木葉井悦子のアトリエ」として年間を通して木葉井の作品をご紹介します。(定期的な展示入替あり)